



<CAM ベトナム・リサーチ・レポート>

情報提供用資料

2019年8月20日

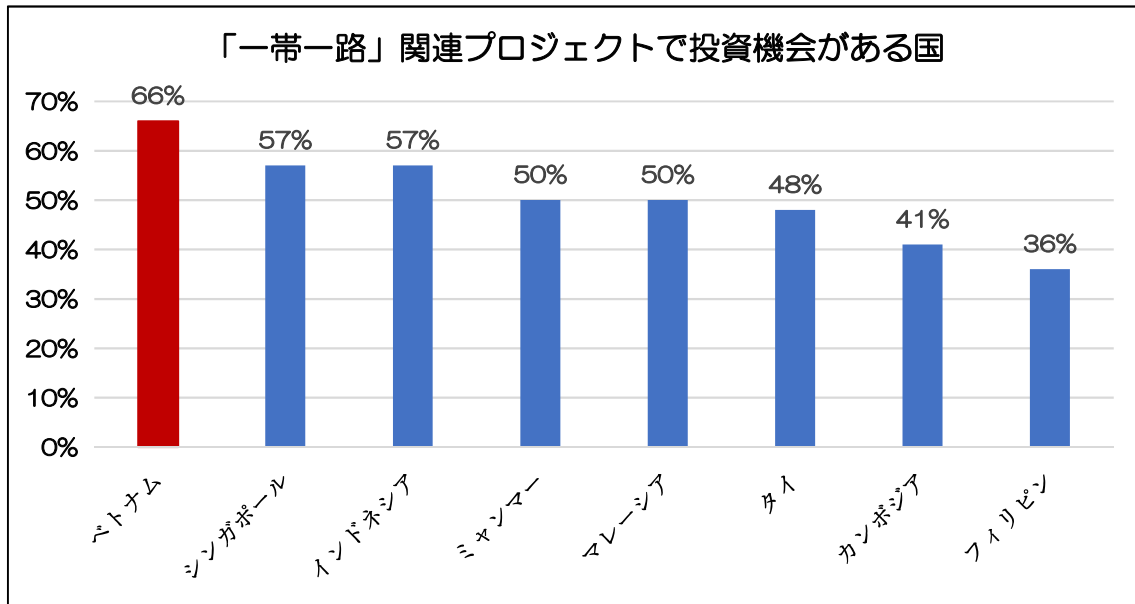
「一帯一路」関連企業の投資機会

ベトナムが注目度 No. 1

シンガポールの経済団体シンガポール事業連盟（SBF）の調査*によると、中国の「一帯一路」（現代版シルクロード経済圏構想）に関連した事業の投資先としてベトナムが最も魅力的であるとの結果が示された。

ベトナムは高い経済成長率を保ちながら、政治的にも安定しており、米中の貿易摩擦の影響で中国からの生産移管が進んでいることから、インフラ整備の需要が高まっており、そこに大きな投資機会が見込まれる。

現在、ハティン省のソーラー発電、ハノイの環状5号線、ホーチミン市メトロ地下鉄等のプロジェクトが進められているが、今後も同国のインフラ関連に対する投資が加速することが期待されている。



*SBFとPwC（プライスウォーターハウス）の共同による、金融サービス、コンサルティング、建設・建設資材関連、オイル・ガス関連企業等約50社に対する調査（2019年6～7月実施）。

出所：SBFのデータを基にキャピタル アセットマネジメントにて作成

以上